

# 2022年度 東北ブロックPDCAサイクル

2023年2月1日現在

施設名	課題	目標	目標達成の検証方法	結果	改善
東北大学病院	診療体制の充実	AYAがん患者の診療体制のあり方を病院全体で検討し、かつ小児科から成人科へのTransitionのあり方についても検討して、これらの診療体制の確立を目指す。	AYA世代がん患者診療体制WGを通じて、多職種スタッフ雇用状況の把握、多職種間連携のあり方、小児科と成人科の連携・Transitionのあり方が確立されたか、その進捗状況を検証する。	診療科・職種横断的なAYA世代がん患者診療体制WGを複数回開催し、病院全体としてのAYAがん診療体制が構築された。AYAがん相談室が新たに開設された。Transitionについては具体的な問題点の抽出が行われた。	Transition（移行期医療）については、今後病院全体としてそのあり方や体制作り（仮称：移行期医療支援センター）について議論していく必要がある。
	人材育成の向上	多職種スタッフの雇用継続とともに、小児がんに関する講習受講をさらに進めて患者支援の質向上に努める。	多職種スタッフ雇用が継続され、講習受講状況が促進されているかを検証する。	多職種スタッフ雇用は継続され、講習受講は着実に促進された。	保育士は全員病院収入雇用とし、他の雇用継続が行いやすい状況としたい。講習受講は引き続き促進する。
	小児がん相談支援の改善	高校生学習支援の各高校での体制に格差がなくなること、長期フォローアップ外来の事前カンファレンスが必要がすべての患者に行われることを目指す。	高校生が入院後、いつから遠隔授業が受けられ、単位取得に貢献したか、患者満足度はどうであったかを検証する。長期フォローアップ外来の事前カンファレンス症例数の推移を検証する。	高校生の遠隔授業は少数例ではあったが、単位取得への貢献度や満足度は高かった。病院との交渉により、私立高校への対応が改善されたケースがあった。長期フォローアップの事前カンファレンスは月1回行い、症例数は増加した。	高校間の格差を解消するため、引き続き教育行政との連絡会議を開催し、私立高校とは個別に連携する機会を設けるようにする。
弘前大学医学部附属病院	診療体制の充実	妊孕性温存療法を積極的に活用する。	活用例数を集計する。	専門外来利用は4症例。	小児科より 提案した症例数は多いが、治療に専念したいなどの理由で受診希望されない症例もあり今後の課題と考える
	人材育成の向上	多職種カンファレンスを積極的に行い、相互理解やスタッフの経験を蓄積する。	開催回数を集計する。	復学支援に関するもの5回、造血細胞移植に関するもの5回であった。	前年に比較し増加、内容の改善あり継続していきたい
	小児がん相談支援の改善	フォローアップ手帳をより活用していく。	活用例数を集計する。	FU手帳の利用は6名。院内のがん相談支援室利用は若年成人症例中心に5例。	前年比で同程度。今後、小児AYAがん症例ではほぼ全例の相談支援を目指す
青森県立中央病院	診療体制の充実	「AYA世代の生殖機能保存の支援体制の構築」 →当院血液内科が行う支援体制の構築への協力を行う。	青森県がん診療連携協議会の協力を得て、検証を行う。	生殖医療保存に限らず、AYA世代がん患者の困りごとをスクリーニング等を行うため、がん相談員が初回入院時に訪問する取組が始まった。	院内多職種に対するフィードバックを行い、体制強化へつなげる。
	人材育成の向上	「多職種スタッフの配置」 →相談支援に携わる人材を中心に、病院全体として、小児がんに関わる多職種に人材を育成する。	同上	国立がん研究センターが主催するがん相談支援センター相談員研修基礎研修修了者を増やすことができた。	LCASなど専門的な研修修了者を増やす。
	小児がん相談支援の改善	「高校生の復学支援の構築」 →がん相談支援センターと連携し、復学支援を行える体制を整備する。	同上	病弱特別支援学校と連携した支援体制が継続されているが、対象者は多くはない。	更なる体制強化が求められる。

## 2022年度 東北ブロックPDCAサイクル

2023年2月1日現在

施設名	課題	目標	目標達成の検証方法	結果	改善
中通総合病院	診療体制の充実	AYA世代の長期フォローを充実させる（サマリー作成、病状説明）	サマリー作成、病状説明実施数で確認	定期フォローで受診している中学生以上の患者にはサマリー、病状説明済	小学生以下は説明の成長度合いに応じて、タイミングを計りながら進めていく
	人材育成の向上	他職種の講習受講ならびに相談支援部会への参加を促す	研修会への参加人数で確認	医師以外の研修会参加実績なし	引き続きコメディカルスタッフへの研修会参加を促していく
	小児がん相談支援の改善	患者会の活動を継続する	患者会HPを作成し、情報提供を確認	患者会HP依頼中、年1回患者会開催	HP作成を進める
秋田大学医学部附属病院	診療体制の充実	妊孕性温存に関する説明内容の充実を図る。	説明の実施状況の確認。	中学生女性1名	該当事例があれば実施する
	人材育成の向上	多職種における小児がんに関する知識や対応力を充実させる。	多職種学習会の開催状況の確認。	6回の実施（不定期）	継続する
	小児がん相談支援の改善	高校生の復学支援や院内学級入級基準を満たさない学童の遠隔教育体制を整備する。	遠隔授業を受けた患者からの感想や評価。	対象者無し	該当事例があれば実施する
岩手医科大学附属病院	診療体制の充実	医療クラークの外來補助を開始する	クラーク配置を確認	2名のクラークを配置	更なる拡充を検討する。
	人材育成の向上	造血細胞移植コーディネーターの育成	試験の結果を確認	合格し、配置となりました	引き続き育成を行う。
	小児がん相談支援の改善	夜間小児疾患電話対応を医局で行うべく検討	24時間電話対応可能となった	24時間対応可能となった	24時間体制の維持

## 2022年度 東北ブロックPDCAサイクル

2023年2月1日現在

施設名	課題	目標	目標達成の検証方法	結果	改善
岩手県立中部病院	診療体制の充実	拠点病院、関連病院との連携を図り、患者さんのニーズに沿った適切な医療を提供する	実績の確認	近隣在住で、拠点病院で治療中・治療後の患者さんの、外来治療・経過観察を受け入れた。	/
	人材育成の向上	多職種カンファレンスの一層の充実を図る 多職種対象勉強会の開催、院外講演会等の参加を促す	実績の確認	勉強会の実施(6/22, 10/6, 1/19)	/
	小児がん相談支援の改善	当院では対応が不十分なケースについては、体制の整っている他院への相談を慮する	実績の確認	相談支援該当者なし	/
山形大学医学部附属病院	診療体制の充実	「他科・多職種の症例カンファレンス参加」 血液内科医師と連絡をとり、AYA世代の診療について意見交換を行う。	診療内容の変化を自己評価する。	血液内科医師と直接患者さんについてご相談は出来なかったが、東北がんプロフェッショナル養成セミナーにおいて、血液内科医師を講師に招聘するなど、連携をとった。	改善あり
	人材育成の向上	LTFU研修会未参加者に参加を促す。 多職種が参加する研究会・学会への参加、発表を行う。	未参加者に参加を確認する。 参加者・発表者の増加があったか自己点検を行う。	LTFU未参加者の確認を行ったが、今年度は参加者の増加には至らなかった。	改善なし
	小児がん相談支援の改善	「情報提供の充実」 ・昨年に引き続き移植後予防接種の実態調査をまとめ、保健所と連携して、助成について検討していく。 ・AYAルームについて、病院との相談を進める。 ・コロナ禍で滞っている院内学級連絡会議の開催	・予防接種については、年度内に進められた内容を確認する。 ・各担当者へ確認する。	・県内の市町村に予防接種の助成事業について、実態調査を行った（3/6に最終的な報告書があがる予定です）。 ・AYAルームについてはコロナ禍で相談は進められていない。 ・教育委員会との院内学級運営委員会が3年ぶりにオンラインではあるが開催された。	改善あり
宮城県立こども病院	診療体制の充実	iPad等を用いた面会、成育支援、教育支援の拡大	実施状況の確認	オンラインによる高校教育支援やiPadを用いたプレパレーションなどが行った。	院内Wi-Fi環境整備を行い、より多数例への対応する。
	人材育成の向上	学会や研究会への参加	スタッフの参加状況の確認	全スタッフが学会もしくは研究会に参加、発表を行った。	スタッフ向けの、小児がん晩期合併症、きょうだい支援など、小児がん相談支援に必要な知識についての勉強会を行う。
	小児がん相談支援の改善	支援パンフレット配布の促進	配布状況の確認	入院時・退院時など必要な時期に支援パンフレットの配布を行った。	より確実な支援につながるよう、支援パンフレットの配布とともに患者への説明も徹底していく。

## 2022年度 東北ブロックPDCAサイクル

2023年2月1日現在

施設名	課題	目標	目標達成の検証方法	結果	改善
福島県立医科大学附属病院	診療体制の充実	福島県唯一の小児・AYAがん患者診療施設として多職種と連携し各がん種に対応できる診療体制を構築し、先端的治療（陽子線、ハプロ移植、治験）を充実させ、難治性疾患の治療を行うことで全国規模での小児がん治療成績の向上に貢献する。	①拠点病院、連携病院との情報共有により、患者が希望する病院へのスムーズな紹介。 ②新たな治験数、患者登録数を評価する。 ③他県からの紹介数、セカンドオピニオン数を評価し、する。	① 陽子線治療4名、ハプロ移植9名の患者を受け入れ治療した。 ②新規国際共同治験に参加し、3名の患者組み入れを行った。 ③他県より15名の患者を受け入れた。セカンドオピニオンは9件であった。	ほぼ目標を達成することができた。
	人材育成の向上	専門医、支援スタッフの人員確保と知識及び経験値の充実を図る。小児AYAがん長期支援センターの充実。成人科との連携体制を整備。遺伝、ゲノム医療にも対応できる人材の育成。医師以外の医療スタッフの研修の機会の確保。	地域における研究会、講演会、セミナーなどの開催、学術集会などへの積極的参加と発表を行い、コロナ禍の中、Web開催も並行して進める。多職種でのケースカンファランスの定期的開催 長期フォローアップ研修会への参加、小児AYAがん長期支援センターの内規を制定し、定期的連絡会議を開催 エキスパートパネルへの参加	小児血液がん学会、造血・免疫細胞療法学会などでの発表を行った。2週間ごとのPediatric tumor board開催し、多職種の意見を集約化し治療に生かすことができた。小児AYAがん長期支援センターの内規を制定し、定期的連絡会議を開催することができた。TOP2も含めたエキスパートパネルへの参加も行った。	小児AYAがん長期支援センターが充実し、大規模観察研究にも対応した。小児血液がん専門医が1名増加した。ほぼ、目標を達成することができた。
	小児がん相談支援の改善	生殖機能温存（精子、卵子保存）に関する相談員の育成 AYA世代からの相談に対応できるようにする。 ファミリーハウスでの相談体制も整備し、Zoomでの相談なども考慮する。セカンドオピニオンの体制整備。	小児AYAがん長期支援センターを中心に関連診療科と連携し症例数の増加を目指し、人員確保を目指す。Webでセカンドオピニオンを行える体制の整備。	生殖医療との連携は、情報提供は行っているが実際に実施できた人はいなかった。Webでセカンドオピニオンを行う体制の整備もできなかった。	今後、ゲノム医療の普及にともない遺伝カウンセリングとの連携を深めていきたい。